チェックしましょう 認知症が疑われるサイン

以下のチェックリストを参考に「認知症かもしれない」というサインに早めに気づき、地域包括支援センターなどに相談しましょう。

認知症による変化は、本人よりも周囲の人が気づきやすいことも多いので、身近な家族などが一緒にチェックしましょう。



- ☐ 直前にしたことや話したことを忘れてしまうようになった。
- ☐ 同じことを何度も言ったり、聞いたり、したりするようになった。
- ☐ 置き忘れやしまい忘れが増えて、いつも探しものをしている。
- ☐ 知っているはずの人やものの名前が出てこなくなった。
- ☐ つじつまの合わない作り話をするようになった。
- ☐ 以前にくらべ、ささいなことで怒りっぽくなった。
- ☐ おしゃれや清潔感など身だしなみに気をつかわなくなった。
- ☐ 今まで好きだった趣味などへの興味や関心がなくなった。
- ☐ 外出したり、人と会ったりするのをおっくうがり、嫌がるようになった。
- ☐ 今までできていた家事、計算、運転などのミスが多くなった。
- ☐ 日付や時間を間違えたり、慣れた道で迷ったりするようになった。
- ☐ 財布が見当たらないときなど、盗まれたと人を疑うようになった。

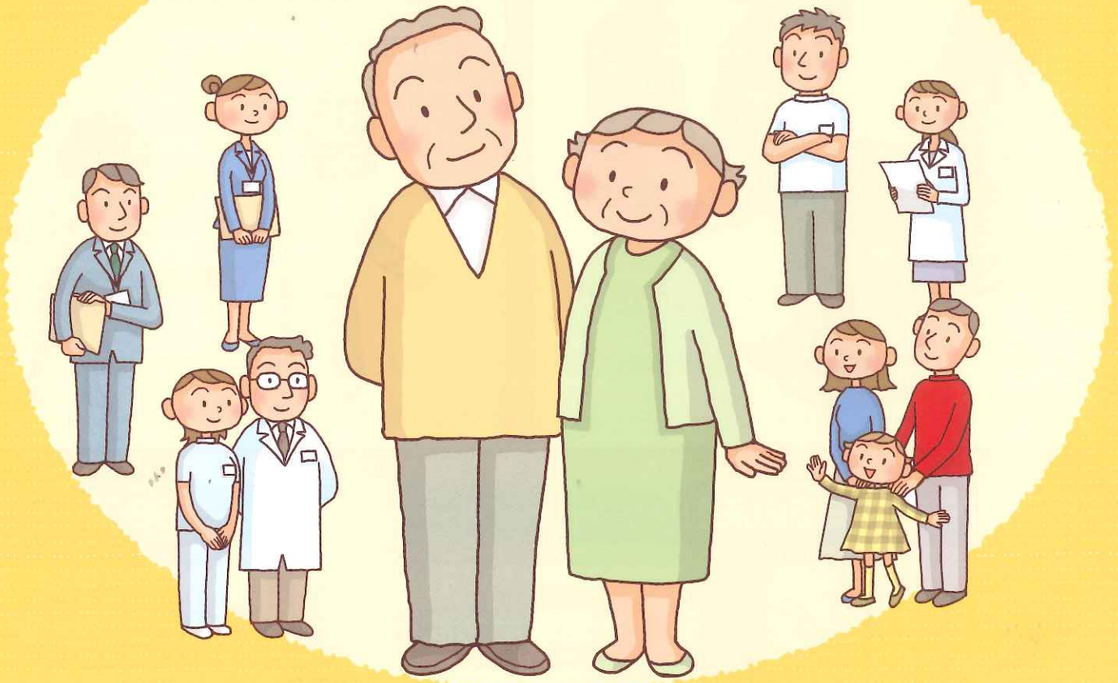
☆質問項目は認知症の初期症状の例です。とくに、家族など身近な人から見て複数の項目が当てはまる場合は、地域包括支援センターやかかりつけ医、専門の医療機関（神経内科、神経科、メモリークリニックなど）に相談してみましょう。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK
UD FONT by MORISAWA
禁無断転載©東京法規出版
HE360980−V15

認知症に備えましょう0

認知症の困りごと・心配ごとに対応

認知症初期集中支援チームをご存じですか？



認知症初期集中支援チームとは

認知症初期集中支援チームは、認知症の人や認知症の疑いのある人、その家族のもとに訪問して、認知症についての困りごとや心配ごとなどの相談に対応する、認知症の専門家たちによって構成されたチームです。

認知症は誰もがなる可能性のある病気であり、早めの対応が必要です。ひとりで抱え込まず、まずは地域包括支援センターなどにご相談ください。

有田町　認知症初期集中支援チーム

すばやく集中的なサポート（初期集中支援）で、認知症の困りごと・心配ごとを解決します

認知症初期集中支援チームってどんなことをするの？

認知症の人やその家族に対して、認知症かどうか診断したり、適切な医療サービスや介護サービスを紹介したりするために、チーム員が自宅に訪問して一定期間（おおむね6か月以内）集中的に支援します。



対象となる人は？

40歳以上の自宅で生活している認知症の人や認知症が疑われる人で、

- ◎認知症の診断を受けていない人や治療を中断している人
- ◎適切な医療サービスや介護サービスを受けていない人
- ◎医療サービスや介護サービスを利用していても症状が悪化して対応に悩んでいる人

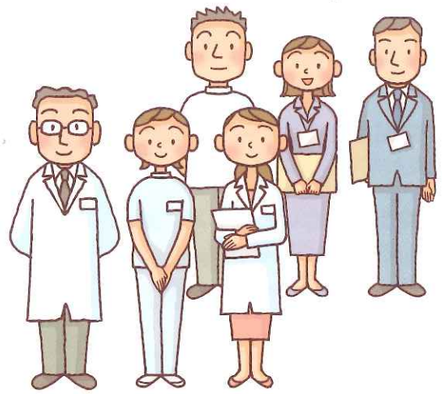
などが対象となります。



チーム員はどんな人たちなの？

医療、福祉、介護の専門家たちによって構成されています。

- ●医師　●保健師　●看護師
- ●作業療法士　●歯科衛生士
- ●精神保健福祉士　●介護福祉士
- ●社会福祉士
- ●地域包括支援センター職員　　など



どうして「早めの対応」が必要なの？

認知症は、現在完治が難しい病気とされていますが、早期に発見して適切な対処をすれば、その人らしい充実した暮らしを続けることができるからです。

早期発見による3つのメリット

メリット1　早期治療で改善も期待できる

認知症の原因になる病気はさまざまですが、早期に発見し早期に治療をはじめることで、改善が期待できるものもあります。

メリット2　進行を遅らせることができる

認知症の症状が悪化する前に適切な治療やサポートを行うことによって、その進行のスピードを遅らせることができる場合があります。

メリット3　事前にさまざまな準備ができる

早期発見によって、症状が軽いうちに本人や家族が話し合い、今後の治療方針を決めたり、利用できる制度やサービスを調べたりする「認知症に向き合うための準備」を整えることができます。



相談から支援までの流れ

地域包括支援センターなどに相談



初回家庭訪問

依頼を受けたチーム員2～3人で訪問します。

※その後も必要に応じて訪問



チーム員会議

適切な医療サービスや介護サービスを検討し、ケア方針を作成します。

- ●専門医療機関の紹介
- ●受診に向けた適切な方法
- ●本人の状態に合った介護保険サービス

など



初期集中支援の実施



医療やケアマネジャーなどへの引き継ぎ・支援



本人が受診を拒むこともあります

「自分が認知症かもしれない」という不安はとても大きなものです。家族など周囲が受診をすすめても、本人が頑なに拒むこともあります。そんなときは、まずは家族だけで地域包括支援センターなどに相談し、アドバイスを受けることもできます。

